

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年10月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675200226号
法人名	有限会社文月会
事業所名	グループホームこころ
所在地	鹿児島県始良市加治木町西別府2820番地3 (電話) 0995-63-6300
自己評価作成日	2012年10月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の環境を整えるという事に力を入れております。まず環境は四季折々の野菜を作り、四季を感じいただいています。自分で畑作業は出来なくても、見える場所に畑があり作業の様子が見えます。野菜を切る包丁の音や、料理をする音、人の話し声等の生活音、ゆっくりしたい時に過ごせる自分の部屋等を提供できるように心がけております。月に1~2回のボランティアによる大正琴や絵手紙などは顔見知りの関係になり、また、話相手になりどの入居者の方も楽しみにしています。現在特に力を入れているのは、入居者の方々のケアについてです。月に1回づつではありますが入居者の方々の事を知りたいと一生懸命研修活動に取り組んでおります。グループホームこころは、同法人に訪問看護ステーションがあり、医療連携が取りやすく何か緊急の事態が起こった際は対応がすぐに受けられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

始良市郊外、自然環境に恵まれた閑静な住宅地に建てられている当事業所は、桜の名所でもある高岡公園も近く、四季を感じながらの散歩コースに最適の環境である。共用空間のリビングからは農作業の光景が見られ、日常的に近隣の方々が気軽に訪れ、野菜のおすそ分けやときにはお茶を飲んでいくなど良好な近所付き合いがなされている。他にも小学校の学習発表会見学やバザーに出かけたり、地区運動会では利用者の席も確保され、種目にも地域の一員として参加している。また、毎年、子供会の七夕飾り・ひな女踊りの訪問もあり、子どもたちとの交流も盛んで、地域との良好な関係が築かれている。元気な利用者が多く、外出も瀬回で、ときには弁当やおやつを持参して温泉に出かけることもある。ホーム内が明るく活気があり、利用者同志の会話はずみ、仲の良い利用者はお互いに居室を訪ね、ときには話しこんでベッドで一緒に寝ていることもあるなど自宅と変わらない生活がなされている。入居して3~4年経ってもレベルが低下することなく、排せつについても入居時と変わらず自立が維持できている利用者も多い。管理者・職員の認知症ケアに対する研鑽意欲が高く、現状に満足することなく、常に利用者の求めていることを模索している。また、あらゆる事例の検討会や気づきの研修なども力を入れて職員の資質の向上と更なるサービスの質の向上に取り組んでいる。職員の離職も少なく、利用者・家族とのなじみの関係と信頼関係が築かれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	認知症の方々の不安や苦しみや楽しみ、喜びが共有できるように言葉や表情、行動を受け止めケアすることが心からの笑顔を生む支援だと心がけている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を作成している。日常のケアで迷った時や事例を検討する際に理念を振り返る機会としている。また、職員が理解して共有できるようにわかりやすい内容の理念に見直している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や小学校の行事等に参加できる様に支援している。学校からも学校行事への案内をいただいている。	町内会に加入しており、町内会総会への出席や町内美化運動にも積極的に参加し、地区住民の相談の場としてもホームが活用されている。また、小学校の学習発表会の招待や校区運動会では利用者の席も確保され、利用者も地域の一員として種目に参加するなどしている。子ども会からの七夕かざり・ひな女踊りの訪問や野菜のおすそ分けなど近隣とも良好な近所付き合いがなされている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域自治会の総会や奉仕作業に参加し、グループホームの存在を知らせている。実習生の受け入れやバザー、運動会、学習発表会等へ一緒に行き、入居者の方々も一緒に過ごしてもらう。介護相談も受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行動異常やヒヤリハット、事故報告を通して、運営推進委員会の意見を活かしている。また、外部評価等で気づいた課題を目標にして活かしている。	自治会、民生委員、家族、地域住民代表、行政等の参加を得て2ヵ月に1回開催している。利用者状況、活動報告、行事予定、ヒヤリハット事故報告などを行い、ときにはターミナルケアについての話し合いや認知症勉強会を行うこともある。また、消防訓練時に行うこともあり、地域の方や家族の参加が得られ、安全対策の話し合いもなされている。運営推進会議を行うことで地域との繋がりが深まり、サービス向上や運営に活かされている。	

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	始良福祉事務所や市役所へ必要な情報や相談はおこなっている。入居者のサービスに役立っている。	運営推進会議にも行政の参加が得られ、事業所の実情を伝えている。また、日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない様に考慮している。玄関の施錠は夜間のみ行っている。自由に外出できる様にしている。転倒などが予測される場合など行動異常が出現した場合は早急に解決できる様に取り組んでいる。	ホームの方針として身体拘束を回避するケアに取り組んでおり、身体拘束委員会を設置して毎月、定期的に事例検討会・勉強会を行っている。また、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為についてチェックシートを作成し、職員全員で確認するなど職員が正しく理解できるように取り組んでいる。日中は施錠などせずに安全で自由な暮らしを支援している。また、重要事項説明書にも身体拘束について明記している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力や知識不足で虐待を行わない様に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会を持った。特に言葉や行動については謙虚に向き合う事を学んでいる。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に口頭説明や文章により説明を行っており同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設けている。外部評価のアンケートでの意見等を参考にしている。支払いや面会の際に入居時の様子を伝えと共に要望や意見などが有れば、運営に反映している。	面会時、ホーム行事、電話連絡時などに家族から意見、要望を聞き出すようにしている。また、離職が少なく家族ともなじみの関係が築かれており、管理者不在でも職員は全家族に対応できるように情報の共有を徹底している。出された意見・要望は職員間で話し合っ運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の食費についてや、職員の体制について等意見が有り検討した。ミーティングなどで検討する。	朝の申し送りはないが、職員は必ず記録に目を通してから業務にあたるようにしている。必要に応じてミーティングを行い意見・提案などを話し合っている。離職が少なく、意見・要望がしやすい環境にあり、職員間のコミュニケーションが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外手当や、研修参加時の配慮などを就業規則で行った。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人で月に1回、外部指導を受けている。対象者2名が他職員と研修情報を共有している。それぞれのケアの課題に気づく、自分を知る事等を事例を作り研修している。管理者はスーパービジョンについて学んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者同士共同で外部講師の研修会を行っている。グループホーム協議会の中でネットワークづくりができ交流している。</p>		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決定した時点でこれまでの生活状況についてご家族や本人から情報をいただき、入居されてからの混乱が少ないようにしている。ご本人に職員が受け入れて頂けるよう情報を利用して関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談の際に十分にご家庭での様子や不安、要望などがゆっくりと話せるように時間を設けている。入居前にはご家族と面談の機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で早急に入居の対応が必要となった場合は地域のグループホーム等の空所状況を確認し案内したり、担当ケアマネに連絡するまたは、包括支援センター等と連絡、連携する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の苦しみが何なのか、要望が何なのか、その表情や言葉、行動を言葉にして伺う様にし、苦しみや不安、喜びを一緒に共有できるように努めている。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には現在のグループホームでの暮らしぶりや病院受診の結果などを伝えている。写真を通じて外出の様子を知らせたり、毎月のこころ便りで外出状況を家族に知らせている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人等の面会依頼や自室でゆっくり楽しめる様に支援している。また、行きつけの美容院やかかりつけの病院も継続している。	地域出身の利用者もおり、地域行事・学校行事に参加している。また、一時帰宅、墓参り、理美容院などこれまでの関係が途切れないように支援している。友人・知人の訪問も多く、訪ねやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の工夫や、家事への参加の際、行事への参加時は孤立しない様に配慮に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも必要に応じて相談に応じたり必要な支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際や、プランの更新の際に希望や意向の把握に努めている。本人の言葉や表情、行動からどのようにしたいのかコミュニケーションに努めている。	利用者が何を求めているのかを引き出せるように職員は利用者との関係の構築に努め、常に意識を持って本人とじっくりと向き合い、話を聞くように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事例検討等をし生活歴や背かつ環境などを知ることが多くなった。把握には努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際にご本人と計画作成担当者が話すだけではなく、介護職員等から夜間の様子、日中の様子等知ることが多い。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と本人と管理者が面談して得た意向等をミーティングで介護職員と共有し介護計画を立案している。	本人・家族の要望、職員の意見、提案など反映させている。本人希望による家族との時間や身体機能低下予防のための生活リハビリなどサービスに取り入れて本人がより良く暮らせるように個々に応じた介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、必要に応じて随時見直して現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケア記録の中から情報を得た事を介護計画や実践に生かすようにしている。行動異常等は特に、身近に記録しているのがわかり易い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院リハビリ等の希望があれば出来る範囲で通院支援などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さんとの意見交換を行い、地域での行事状況等の情報をいただき参加したりしている。ボランティアの方に季節の歌や絵手紙などで話し相手になっていただくなど協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が従来から利用していた先生がかかりつけ医となっているため、既往がわかり易く、ご本人も安心して治療を受けておられる。事業者への助言も細部までいただいている。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。ほとんどの利用者はホームより受診同行しており、かかりつけ医との関係を築いている。また、家族が連れていく際は情報提供書を作成している。訪問看護事業所との契約により利用者の健康管理が密におこなわれて家族の安心にも繋がっている。	

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化に気づき看護師や訪問看護師に報告し、早期に受診や訪問看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護情報提供書を発行し、入院時の治療がスムーズに行くように配慮している。また、主治医やSMWと情報交換し早期退院に勤めている。家族にも協力いただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、家族や本人の意向を伺い、主治医に伝える等を行っている。また、ここで出来る事や、足りない事を伝えている。訪問看護ステーションとの医療連携も図っている。	重要事項説明書に重度化・終末期対応指針・家族などの同意について明記されており、入居時に説明している。また、家族の希望、緊急時の対応についても事前に聞いて記録している。入居後は身体状況に応じて医師の指示のもと、家族と方向性を話し合っってホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。消防署による普通救命講習・AEDの取り扱いなど実技を兼ねた勉強会も定期的に行い、職員の不安軽減に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防による普通救命講習に全員参加して、救急対応を学んでいる。ヒヤリハットの際等に対応法を皆で考えている。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の方に火災避難訓練時に参加してもらった。また、特に夜間の体制で訓練を行っている。</p>	<p>年2～3回夜間想定で避難訓練を行っている。近隣とは協力の話し合いが行なわれており、訓練には地域の消防分団員や運営推進委員の方々の参加も得られ、緊急連絡網にも登録されている。スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。地域の避難場所としても活用してもらえるように呼びかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	子供の様に話しかけたり、友達のような会話になったり、やってあげるといような対応をしない様、謙虚な姿勢を心がけている。入居者に教えていただいている。	利用者の人格を尊重し、利用者の心情を大切にしたケアに取り組んでいる。ミーティング時や日常の業務でも気づいたら注意し合うなど、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の表情や行動などについて言葉にしてコミュニケーションを図り、どのようにしたいのか自己決定をされる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか要望が話していただけない。皆さんがいる所で過ごしておられる。自室で過ごしたい時は自室で過ごせるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服の買い物や、美容院へ行く等の手配を支援している。櫛や鏡、乳液等の不足に気づける様に気配りに心掛けている。また、衣類の不足や下着の不足等はご家族に連絡している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片づけ等、それぞれの方の力で行っていただいている。	利用者より畑作りや味噌作り、団子作り、干し柿などのアドバイスをもらいながら職員と共に行っている。ときには気分を変えて、手作り弁当持参で季節の花見や遠足、外食(ファミリーレストラン・くるくる寿司など)に出かけ「食」を楽しむこともある。気候のいい時期は庭でお茶を楽しむこともある	

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックや食べやすい形状に工夫したり、残食があった場合など食べやすい物に変換する等の工夫をしている。食欲低下や体重減少がある場合は主治医へ報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの力により口腔ケアができる様に毎食後支援している。義歯の清潔も保持できる様に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄を言葉で伝えられない対象には、表情や行動、会話等から推察し、本人と話をしトイレで排泄をしている。見当識障害や記憶障害で失禁が起こったりする場合はトイレへ一緒に行く等の支援をしている。	疾患や入居直後など必要に応じて排せつチェック表を作成している。また、“誘導”“自ら”に分けて記録するように工夫されており、トイレでの排せつや自立に向けた支援を行っている。全職員がおむつ体感をしており、おむつ使用をしない支援に取り組んでいる。入居して数年になるが入居時と変わらず自立が維持できている利用者も半数近くいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	根菜類等の使用や葉類、果物等の使用に心掛けている。水分量もとれているか確認している。排便チェックを行い、支援ができる様にしている。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	時間帯は指定している。その時のタイミングで入浴されなかった場合は時間を変えて言葉かけを行っている。必要時はいつでも入浴支援は行っている。	基本的には週3回を目安としているが希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴の支援を行っている。年1回であるが弁当・おやつ持参で横川の温泉にも出かけている。また、日常のドライブの途中で足湯に寄ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の表情で苦痛そうな場合ご本人と話、自室へ案内している。また、自室で過ごされたい場合は見守りをするようにしている。シーツ等の保清や交換、布団干し等に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や調剤薬局と連携を図り薬の変更時等は説明を薬品情報書を利用して受けている。また、出血をし易い薬剤や高圧剤服用者等については説明を職員にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの出来る事をしていただいている。洗濯物をたたむ事や食事の下拵え等の家事を楽しまれたり家族と飲酒の為に外出されたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期受診やリハビリ通院、洋服の買い物、地域の行事、グループホームの行事、美容院等外出支援している。行きつけの美容院や家族に会いたい時などはご家族と一緒にいられる。買い物等希望の物があれば代行する。	日常的にはホーム周辺の散歩に出かけ畑仕事をしている近隣の方々と話したり回覧板を届けたりしている。また、地域行事参加や小学校訪問、ときには遠出で弁当持参の季節の花見、遠足、外食、ドライブ、温泉、足湯など外出の機会を瀬回りに設けて支援している。他にも個別支援で墓参りや自宅訪問、買い物、理美容院などの外出支援も行っている。	
		○お金の所持や使うことの支援	お金の所持は忘れるが、預り金入れに記名し、受診や支払の際		特定非営利活動法人 NPOさつま

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人に報告し、文書や文書以外にはその都度説明をしている。お金の事で心配されていると判断した時は預かっている経緯を説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	御礼状や挨拶状、絵手紙等の住所の代筆、ハガキの準備などをし、ご家族や親しい人との手紙のやり取りができる様に配慮をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調整や、空気の入替え等行い過ごし易い様に配慮している。季節の花を飾る等の配慮をしている。トイレの汚れなどにはその都度配慮している。	共用空間はさほど広くはないが、食事のテーブルとくつろぎのソファの配置が工夫されてメリハリのある生活が送れるように配慮されている。日当たりが良く、外の光景が見える場所に置かれたソファでは景色を眺めながら仲のいい利用者同志がおしゃべりしたり、テレビ観賞でゆっくりとした時間を過ごすなどそれぞれが居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で休んでいただくように配慮している。本や新聞を読んだり、衣類の整理をしたり、外を眺めたりされる。孫の写真などを見せて入居者同士で話をされている場面もある。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたご本人の布団や衣類バッグや持ち物等入居の際にご家族に依頼し持ち込む様にしてある。衣類の整理等もご本人の力に合わせて整理を依頼し、使い易い様にしてある。</p>	<p>寝具、時計、位牌、家族の写真、飾り物などが持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫されている。仲のいい利用者はお互いに訪問して、ときには、ベッドと一緒に寝ていることもあるなど自宅のように過ごしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手摺やスロープの設置が有り安全に歩行力が維持できるようにしてある。トイレは両側に手摺の設置を行い安全に配慮してある。キッチンが対面になっており介護者の顔が入居者にみえコミュニケーションが図れる。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームこころ

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームこころ

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない